

瀬戸内学園広報紙

発行 社会福祉法人 瀬戸内福祉事業会

瀬戸内学園 根っこ せとうち

つばさせとうち ケアホームせとうち・ふたば

発行責任者 宮本 勇

〒712-8015 倉敷市連島町矢柄6092

☎086-448-1811

せとうち

40周年記念号 ～この5年を振り返る～



26年度 ゆうあいの翼
カンボジア



27年度 一泊旅行



28年度 初詣
八幡神社



29年度 日帰り旅行



30年度 ナイスハート



31年度 学園祭

瀬戸内学園創立40周年を迎えて

統括園長 宮本 勇

昭和54年に始まった瀬戸内福祉事業会・瀬戸内学園は、令和の時代の始まりに無事創立40周年を迎える運びとなりました。この間、決して平たんな道ばかりではありませんでした。が地道に歩みを積み重ね、今日を迎えることができましたものと感慨ひとしおであります。これもひとえに地域の皆様をはじめ、多くの関係する方々のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。何よりこの間の、ご利用者・ご家族の努力や熱い思いと、それに応えようとする職員的情熱と行動力には頭の下がる思いです。

私事ではありますが、瀬戸内学園が誕生した翌年に職員として採用されました。ちょうどその年に学園内に桜の苗木50本の寄贈、植樹がありました。園内の拡張等によって本数は減り、現在は17本となっています。1mに満たなかった苗木が39年の歳月を経てしっかりと大地に根付き、見上げるような大木となり春には園内が桜色に染まるほどになりました。成長したこの17本の桜に見守られ歩んできた学園の歴史の中から思い出を振り返ってみますと、私が就職した当時から前理事長は職員に事あるごとに「かけがえのない一人ひとりを大切に」「社会への奉仕の精神と感謝の気持ちを持って」「仕事をするように」と言われ、そのためには「地道でよい、一歩ずつご利用者やご家族の

声に耳を傾け、共感の目線とチームワークをもって進むように」とご教授くださいました。その精神は今の理事長にも引き継がれ、この40年間瀬戸内学園のバックボーンであり続けています。また、創立3年、10年の記念誌「瀬戸内学園のあゆみ」を見ますと、ご利用者の障がいの高齢化・高齢化が課題として取り上げられていました。その当時からこの課題に対応すべく、各時代の福祉行政の流れやご利用者・ご家族のニーズに耳を傾け事業展開(重度棟の開設・特別養護老人ホームの運営、展開と重度障がい者の方の日中活動の場としての「根っこ せとうち」、そして本年度取り組んだ暮らしと生活の場としての日中サービスマ支援型共同生活援助「ふたば」の開設)によって高齢・重度化への対応は続いています。しかし、この40年ご利用者の高齢化とそれに伴っての機能低下は著しく進行しています。ご利用者をしっかりと支えていくためには、医療との連携・支援員一人ひとりの介護技術の向上、物理的環境の整備等を図っていくことがより求められているようです。

園内の桜も私も40年の歳月の中でいささか老い、くたびれてはまいりましたが、これからも地道に前進できる瀬戸内学園であってこれればと願っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



新しいグループホーム 日中サービス支援型共同生活援助事業所 「ふたば」が開所しました!

今年の8月、瀬戸内学園は40年を迎えました。この間、入所、通所、グループホームとご利用者のニーズに応じた取り組みを行なってきました。ニーズが変わっていくのと同じように、ご利用者の高齢化や障がいの重度化への対応と環境の設定が求められてきました。そんな中、日中サービス支援型共同生活援助事業が制度化され、瀬戸内学園グループでもご利用者のニーズと相まって5月1日より【ふたば】を開設することに至りました。

これまでのグループホームと異なり、日中もホームで過ごす事ができる、グループホームとなります。

現在、女性10名の方が利用され、皆さんのニーズに合わせた活動(創作・趣味的活動、外出)や、四季に応じた行事等の催しを行なっています。高齢化や重度化にも対応できるよう全館バリアフリーで、介護浴槽も設置

し、床暖房等完備となっております。また夜勤職員を配置し毎日24時間、ご利用者の生活に寄り添うよう支援にあたっています。また、短期入所(2部屋)を設け、在宅ご利用者、ご家族の万への支援もできるようにしています。ご希望がある方はまず下記にご連絡下さい。

元号が令和へと変わった同じ日に開所となりました【ふたば】!新しい時代を地域の皆様に暖かく見守られながら、ご利用者と共に歩んでいければと考えています。

ケアホームせとうち ふたば

〒712-8006 倉敷市連島町鶴新田530-2

086-486-5678

短期入所



リビング



居室



トイレ



シャワールーム

「高齢化」に対する取り組み

過去5年間を振り返る

①医療・介護
本年度瀬戸内学園グループは創立40周年を迎えました。若い頃から当園をご利用になられている方も歳を重ねています。そこで課題となっているのが、ご利用者の「高齢化」です。以前からこの瀬戸内学園広報紙でも高齢化に対する取り組みを何度も取り上げてきました。改めて、「高齢化」に対してどのように向き合っているのか、ここ5年間の取り組みを紹介します。

②栄養
平成27年から近隣の医療機関で行われている摂食・嚥下学習会への参加を始めました。とろみつけ方をはじめとした嚥下調整の作り方や、事例を挙げての意見交換を行っています。平成28年、摂食嚥下障害看護認定看護師の方を学園に招いて講義や演習、地域公開講演として「摂食・嚥下講演会」を実施し、多くの方に参加していただきました。また、喀痰吸引等の座学、実地研修を始め、看護師不在でも支援員で吸引処置が実施できるように資格取得を行っていました。しかし、様々な医療行為が必要なこともあり、各事業所看護師の増員も図っています。

平成29年、岡山県介護福祉士会の方を招いて介護技術向上のための演習会を行い、介護技術習得のスキルアップとなりました。また、毎年全職員を対象とした、救命救急講習会も実施しています。ご利用者の身体状況は日々変化しています。今後も介護技術や知識の習得を積極的に行ない日々の支援に繋がっていきます。

平成28年から入所されている方を対象に管理栄養士を中心とした多職種連携による「栄養マネジメント」を始めました。栄養ケア会議を通して、一人ひとりに合わせた栄養計画を立て、体重の変化や食事量、各検査結

長島愛生園での人権学習の取り組み

瀬戸内学園グループでは、障がい者の方々の生活を支える中で必要な人権に関わる知識を正しく知り、学ぶという意識向上を目指す研修カリキュラムとして、平成29年度より瀬戸内市邑久町にあるハルセン病国立療養所長島愛生園を人権学習の場として毎年訪れています。特に、入職して間もない新人職員や永年勤続者(5・10・15・20年と節目を迎えた職員)等を対象にこの取り組みを続けています。

そこで今回、令和元年5月30日に訪問した研修の様子を紹介いたします。

まず前半は、歴史館内で展示されている資料等をもとにハンセン病について、愛生園の長きに渡る歴史、隔離政策、入所者の方々の苦難な生活の様子を中心に学んだ後、実際に本土から長島に入所者の方々が上陸した収容桟橋・収容所(回春寮)・監房・納骨堂等の史跡を巡り、愛生園に関する多くの歴史を直に肌で感じる体験をしました。

そして後半は、長島愛生園入所者自治会より、語り部としてお一人の方をお招きし貴重な体験談等を約1時間かけお話を聞かせていただきました。最後に、質疑応答等の機会も設けてくださり、参加者全員のひとつひとつの問いかけにお答えくださいました。実際に、長年に渡り社会より隔離され人生の大半を過ごされた多数の入所者を代表して生の声を直接お聞きすることができ、一同とても有意義な時間を過ごすことができました。

参加した新人職員の感想

「今回、長島愛生園の研修に参加して、差別や誤解、無知であることの怖さを改めて感じました。誤った考えや国の政策が原因で人生を変えられてしまった患者さんやご家族が多く存在し、現在でも差別がなくなくなっておらず偏見も根強く存在しています。このような現状の中で、研修に参加した私たちは何をすべきなのかとても考えさせられました。また、語り部の方のお話で「差別は一般の人も怖かった。だけど、職員が怖かったな」というお話がありました。このお話を伺って、私のご利用者への言動や態度はどうだっただろうか。威圧的な態度を取ってなかっただろうか。何気ない一言が傷つけていなかっただろうか、と改めて自分の言動、行動を振り返る事ができました。誤った認識は差別や偏見をうみ、多くの人々を傷つけてしまうことを学びました。

知的、精神、身体に障がいを抱える方にも世間からの偏見や間違っ



た認識が現在もあるように思いますが。しかし、このような偏見もハンセン病と同じように無知が原因であることが多く、障がいについて知ってもらえれば障がいを持っている方への誤解や偏見も解決されるのではないかと思います。日々ご利用者と関わっている私達のご家族をはじめ周りの方々へ正しい情報を発信していくことが大切ではないかと思えます。ご利用者の方を支援していく上で一人ひとりを尊重し、自らが正しい知識を持つ事が重要だと感じました。

今回学んだことを、日々の業務に活かしながらより良い支援を行っていきたいと思えます。」

以上、紹介させていただいた同様な感想が多く聞かれました。今後この研修を糧に、私たち瀬戸内学園グループ職員は日々ご利用者の支援に携わる中で人権擁護を忘れることなく前進していきます。

果、疾病を考慮し計画の見直しを行っていきながら安心・安全に食事ができる方法、健康を維持できるように実施しています。

③ 食事

平成31年2月から高齢の方にも安心して食べていただける給食サービスの提供を行っています。現在、普通食、ゼリー食の2種類を提供しています。

普通食でも柔らかく調理されているため、とても食べやすくなっています。その中でも調理員が一口大の大きさに切ったり、手を加える事でより食べやすい工夫をしています。ゼリー食は、栄養価や風味を損なわないように調理をされた物で、ミキサー食をゼリー状にしており、むせも少なく食べただけの形状です。

④ 事業所

平成27年11月には生活介護事業所「根っこせとうち」、本年5月には日中サービス支援型共同生活援助事業所「ふたば」の2つの事業所を開設しました。「根っこせとうち」では、高齢を迎えられた方や身体に障がいを持たれた方が安全に安心して日中の活動に参加できる環境で過ごしていただいています。「ふたば」につきましては右ページにて紹介しています。

⑤ 岡山県知的障害者福祉協会主催のゆうあい論文では、平成25年度「高齢者施設への移行」、平成30年度「摂食・嚥下」に関する論文を発表し、最優秀作品賞を受賞しました。これらの題材は現在、瀬戸内学園グループが抱える課題、支援方法を発表したものです。

これらの取り組みにより、ご利用者が満足していただける生活に繋がることを目指しています。これからも支援員、看護師、栄養士、調理員とチーム一体となって様々な立場からご利用者の生活を支えていきたいと思えます。

平成30年度 瀬戸内福祉事業会 事業報告・決算報告

令和元年6月27日(木)に、グリーンビレッジ瀬戸内において評議員会があり、瀬戸内学園、グリーンピア瀬戸内、グリーンビレッジ瀬戸内の事業報告、瀬戸内福祉事業会の決算報告を行っています。

平成30年度瀬戸内学園グループの事業報告では、防災・防犯対策として全てのグループホームにスプリンクラー・通報装置およびガードシステムを導入したこと、各事業所における防災・防犯マニュアルを策定したこと等の主な事業の報告を行いました。

その他として障害者支援施設瀬戸内学園、多機能型事業所つばさせとうち、共同生活援助ケアホームせとうち、生活介護事業所根っこせとうち、相談支援事業所クローバーせとうち各事業の詳細な報告と職員の就業状況、苦情・事故報告、各種委員会等の報告を行いました。

法人の決算については、別表により決算報告を行っています。なお、令和元年6月5日(水)に監事(2名)によって行われた監査において事業報告・決算報告ともに適正であるとの監査報告を受けています。

平成30年度資金収支及び事業活動収支計算書総括表

(単位：千円)

貸借対照表			
資産の部		負債の部	
流動資産	908,425	流動負債	373,356
固定資産	2,572,042	固定負債	1,064,201
基本財産	2,333,820	負債の部合計	1,437,557
その他固定資産	238,222	基本金	426,886
		国庫補助金等特別積立金	709,340
		その他の積立金	44,000
		次期繰越活動増減差額	862,684
		純資産の部合計	2,042,910
資産の部 合計	3,480,467	負債及び純資産の部合計	3,480,467

資金収支計算書			
	決算額		
	収入	支出	当期資金収支差額
事業活動による収支	1,564,416	1,441,798	122,618
施設整備等による収支	382,407	427,555	△ 45,148
その他の活動による収支	11,526	13,641	△ 2,115
当期資金収支差額合計	1,958,349	1,882,994	75,355

事業活動収支計算書			
	決算額		
	収入	支出	当期活動収支差額
サービス活動増減の部	1,551,683	1,517,447	34,236
サービス活動外増減の部	12,733	14,362	△ 1,629
特別増減の部	21,007	14,686	6,321
当期活動増減差額	1,585,423	1,546,495	38,928

苦情等の報告

平成30年度、苦情報告は9件、事故報告は297件、ひやりはっと報告は26件ありました。この報告を基に、苦情解決検討委員会・危機管理委員会を毎月開催し、解決を図ってまいりました。苦情報告は、今年度も安全運転への警告やご利用者への支援や対応に関するものでした。そのため、安全運転につきましては交通ルールやマナーの講習で、啓発活動を行いました。支援に関しましては統一した支援や誠実な対応ができるように職員に周知するとともに、ご家族との情報共有や信頼関係の構築に努めました。また、事故・ひやりはっと報告では転倒事故が多く報告にあがっており、日課の見直しや設備の改善等に関して協議を重ねていきました。その他の事象につきましても1件ごとりにリスク分析を行い、改善を行ってまいりました。

瀬戸内学園後援会報告

令和元年6月13日(木)に瀬戸内学園後援会理事会が開催されました。平成30年度には、個人会員314名、法人会員37名のご協力をいただき、919,000円の会費が集まりました。この場をお借りしまして後援会に入会していただいた会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

昨年度は、瀬戸内学園創立40周年を迎えるにあたり、この会費を基に公用車の寄贈を行うことができました。ご利用者も大変喜んでおられるとの報告をいただき、うれしく思っている次第であります。

今年度も引き続き瀬戸内学園のご利用者が、より豊かな生活ができますよう支援を続けてまいります。

今後とも皆様の一層のご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

瀬戸内学園後援会
会長 菊池 捷男

【後援会加入のお願い】

年会費 個人会員一口 1,000円
法人会員一口 10,000円

ご入会、お問い合わせは、後援会事務局までお願いいたします。

TEL 086-448-1811

後援会ご加入
ありがとうございました

- ・石原加代子様
 - ・小郷 徹様
 - ・森 謙治様
 - ・大橋 仁之様
 - ・小松原秀子様
 - ・岩山 静子様
 - ・福留 正治様
 - ・増田 昭文様
 - ・小松原精太様
 - ・木村 茂樹様
 - ・大矢 禎子様
 - ・西浦学区婦人会様
 - ・介護保険長尾相談室(有)様
 - ・中央スズキ販売(株)様
- 平成31年2月1日、
令和元年6月30日(順不同)

ご寄付・ご協力
ありがとうございました

- ・瀬戸内学園 家族会様
 - ・瀬戸内学園 後援会様
 - ・(株)カーブスジャパン
 - ・カーブス笹沖店様・連島店様
 - ・早島店様・古城池店様
- 平成31年2月1日、
令和元年6月30日(順不同)

学園祭の
ご寄付・ご協力
ありがとうございました

- ・大橋 仁之様
- ・浅野 亮平様
- ・岡本美智子様
- ・道廣 司様
- ・片山 健様
- ・山本 信仁様
- ・矢柄有志の会様
- ・光岡 真様
- ・大矢 禎子様
- ・道廣 聡様
- ・五反田茂男様
- ・神上園三枝子様
- ・石原 悠一様
- ・喫茶サン様

- ・連島東愛育委員会様
 - ・つばみ会様
 - ・連島東地区社会福祉協議会様
 - ・西浦学区婦人会様
 - ・宝島寺様
 - ・渡辺米穀店様
 - ・茂浦長寿クラブ様
 - ・倉敷手をつなぐ育成会様
 - ・総合厨器(株)様
 - ・倉敷南ライオンズクラブ様
 - ・(有)オノキミ様
 - ・(株)シンノウ様
 - ・(株)広島銀行 玉島支店様
 - ・サラヤ(株)様
 - ・(株)誠屋様
 - ・瀬戸内福祉事業会 法人事務局様
 - ・桜ツリースト様
 - ・(有)日東ベンディング中国 岡山営業所様
 - ・(有)宮原生花店様
 - ・クラカフレッシュ(株)様
 - ・(株)コパックス様
 - ・ヘルスピア倉敷様
 - ・岡山県立大学ダンス部様
 - ・岡山ファーム・アンド・ライス社様
 - ・介護保険長尾相談室(有)様
 - ・岡山ファーム・アンド・ライス社様
 - ・その他ボランティアにご協力いただいた皆様
 - ・地域の皆様ありがとうございました。
- 平成31年2月1日、
令和元年6月30日(順不同)

お詫び・記載漏れ

せとうちがくえん広報誌第85号
後援会ご寄付に、釜元 勝様、河本
マユミ様、岡山ファーム・アンド・ライ
ス社様、中国興業(株)様の記載が漏れてお
りました。
謹んでお詫び申し上げますと共に記載を
させていただきます。
後援会ご加入ありがとうございました。

第37回 学園祭

去る4月13日(土)、春の恒例行事となりました瀬戸内学園 学園祭を開催しました。今年度は当法人創立40周年にあたる年で『ありがとう40年 笑顔あふれる矢柄桜フェスタ』をテーマに地域の皆様やボランティア・関係者の皆様のご協力のもと、無事に終えることができました。

うどん・カレー・たこ焼き・フランクフルト等の出店、日用品や食品が入ったお買い得な福袋が並ぶ得々市には大勢の方にご来店いただきました。また、お子様が楽しめる「遊びの広場」のぬり絵やガチャガチャコーナー、ステージでは、バルーンアート・ダンス・歌・サックス等、ご来園くださいました皆様と瀬戸内学園のご利用者が一緒に楽しめる催し物で大いに賑わい、とても熱気にあふれた楽しい一日となりました。

今年は得々市と模擬店の売上、皆様からご協力いただいた募金額を合わせた金額、108,262円を倉敷市社会福祉協議会を通じて西日本豪雨被災地支援活動への支援金として寄付をさせていただきました。

昨年の西日本豪雨から1年。まだまだ復興には時間がかかります。被災地の一日でも早い復興を願っています。皆様のご協力に感謝申し上げます。

来年も瀬戸内学園 学園祭をどうぞよろしく願いたします。



ありがとうございます!

(株)カーブスジャパン
カーブス笹沖店様、早島店様、
古城池店様、連島店様

カーブス様の社会貢献活動「カーブス
フードドライブ」より、毎年多くの食
品のご寄付をいただいています。カー
ブス様、会員の皆様感謝です!



日産デイズ

後援会よりご寄付いただきました。ご
利用者の送迎や外出等に使用してい
ます。ありがとうございました。



第19回岡山県障害者スポーツ大会

日頃の練習の成果が発揮できたと思います。皆様、本当によく頑張られました。入賞された方、おめでとうございます。

入賞者

- フライングディスクの部
 - 1位 松下 明彦様
 - 2位 斎藤 真里様
- 卓球の部
 - 1位 門脇 まゆみ様
 - 1位 大西 章太様
 - 2位 利川 英弘様
- 陸上の部
 - ・ソフトボール投げ 1位 新免 久仁子様
 - ・100m走 3位 三宅 美智子様



根っこ せとうち 会食会 くらしき茶寮



根っこ せとうち ひな祭り会



連島東地区 避難訓練に参加

行事あれこれ

(2月~6月)

瀬戸内学園 後援会会長 菊池 捷男氏

旭日小綬章を叙勲されました。おめでとうございます。



職員受賞

【岡山県知的障害者福祉協会主催 ゆうあい論文最優秀作品賞】
竹安 宏



のぞみグループ旅行 RSKバラ園



宝島寺祭り お接待

「せとうち」の出来事

◎新しく利用する

瀬戸内学園

- 合田かおり様 4月1日付
- 岩野 杏理様 4月3日付
- 甲斐 清美様 5月1日付
- 手島 陽子様 5月1日付
- 赤木 弘美様 5月7日付
- 鳥越 哲様 5月9日付
- つばさせとうち
 - 宮崎 鷹臣様 4月1日付
 - 小川 智之様 4月1日付
- 根っこ せとうち
 - 石井ひとみ様 1月24日付
 - 中村 美香様 2月12日付
 - 橋本 正昭様 4月1日付
 - 竹中 悠起様 4月9日付
- ケアホームせとうち
 - あじさい 6月1日付
 - 三谷原 恵様 6月1日付
 - 若草 5月7日付
 - 遠矢 千恵様 5月7日付
 - 福本 緑様 5月27日付
 - たんぼほ 5月5日付
 - 久戸瀬祐美子様 5月5日付
 - ふたば
 - 田村 俊恵様 5月1日付
 - 小野 英子様 5月1日付
 - 一安万理子様 5月1日付
 - 番匠 愛子様 5月1日付
 - 河本 裕子様 5月1日付
 - 三宅 好美様 5月1日付
 - 水野 栄子様 5月1日付
 - 大谷伊都子様 5月1日付
 - 吉田 英子様 5月1日付
 - 森本 佑子様 5月27日付

◎退所されたご利用者

- 妹尾 舞様 (他人所施設へ) 1月31日付
- 久保 千賀子様 (他人所施設へ) 3月31日付
- 城戸 悠希様 (他人所施設へ) 3月31日付

◎退職職員

- 尾崎 晶子 管理栄養士 2月28日付
- 中村 理恵 支援員(旧姓・石本) 3月31日付
- 三宅 温美 支援員 3月31日付

- 齋藤 理恵 支援員助手 3月31日付
- 岩山 静子 支援員助手 3月31日付
- 金藤 和美 支援員助手 3月31日付
- 三澤多加栄 支援員助手 4月30日付
- 古茂田 登志子 6月30日付
- ケアホームせとうち 世話人 6月30日付

◎新入職員

- 小松原順子 瀬戸内学園管理栄養士 3月1日付
- 廣江 敦司 瀬戸内学園支援員 3月4日付
- 小野 哲矢 瀬戸内学園支援員 (グリーンピア瀬戸内より) 4月1日付
- 若狭 磨歩 瀬戸内学園支援員 4月1日付
- 平松 史江 瀬戸内学園支援員助手 4月1日付
- 白神 和子 根っこ せとうち支援員助手 4月1日付
- 真島 郁美 ケアホームせとうち 世話人 4月15日付
- 須崎 恵民 根っこ せとうち看護師 4月15日付
- 長瀬 香 ケアホームせとうち 世話人 4月15日付
- 中川 裕介 瀬戸内学園支援員 5月20日付
- 溝口友紀枝 瀬戸内学園支援員 5月20日付
- 皿井 智也 根っこ せとうち支援員助手 5月20日付
- 藤岡ゆりえ 瀬戸内学園支援員助手 6月17日付
- 藤代 智子 瀬戸内学園支援員助手 6月17日付

編集後記

日本知的障害者福祉協会より岡山県知的障害者福祉協会に災害義援金の追加配分があり義援金配分委員会において厳正に審査された結果、災害関連支援(入浴サービス、延べ474人)の功績で「根っこ せとうち」へ配分金をいただきました。少しでもお役に立てたなら嬉しく思います。本当にありがとうございました。復興にはまだほど遠い状況ですが、1日でも早く被災された皆様が元の生活に戻ることを願っています。

(編集部一同)